

1 部門目標

- ・検体採取講習会への受講推進
- ・学会・研修会への参加率向上と、資格・認定資格取得の向上
- ・他職種への指導研修会を開催する
- ・院内の嚙下療法環境整備への尽力と PSG 検査の充実

2 業務体制・スタッフ

臨床検査科は、採血、検体検査（生化学・免疫・血清・血液・凝固・尿一般・輸血・細菌微生物）、生理機能検査、耳鼻科関連検査、病理・細胞診検査の各部門を検査技師 19 名、非常勤検査技師 3 名と委託会社(BML)職員 6 名の合計 28 名のスタッフで運営している。日直・宿直・夜間勤務については常勤職員 1 名と BML 職員 1 名の計 2 名で対応している。(委託会社は生化学・免疫・血清検査を実施)

3 業務実績

検査総件数は、昨年度 115.4 万件に対し、今年度は患者数が少なく 111.6 万件と 4%程度減少している。また、一昨年度より開始した乳腺エコー検査は技師のみで担当出来るようになった。院内各種委員会等にも積極的に参加し、チーム医療に寄与している。主な委員会としては、輸血療法委員会(副委員長)、感染防止対策委員会(事務局)、医療安全管理対策委員(セーフティマネージャー)、SCT 委員会、ICT 委員会(委員長)、NST 委員会などが挙げられる。更に、CPC に際しての資料作りなど日常の業務と平行して励行し、病院運営に寄与している。また、例年通り 6 月から 8 月にかけて 1 名の大学実習生の臨地実習指導を行った。

4 1 年間の総括

部門目標にあげた「検体採取講習会への受講推進」は目標 50%以上であったが 89%で達成できた。「学会・研修会への参加率向上と、資格・認定資格取得の向上」合計 180 人が 104 の学会・研修会に参加し(多くの職員は自費で参加)、学会発表 5 件・原稿投稿 1 件行っているが、昨年度に比べ若干増加、一人平均 7.1 (昨年度 5.4) 回の参加となった。「他職種への指導研修会を開催する」に関しては開催出来なかったが継続していけるよう他部門とのコミュニケーションを努力していきたい。精密 PSG は今年度 49 件で若干だが去年を上回り、治療としての CPAP 療法は今後も増加傾向であることは変わらず、その為に認定 CPAP 療法士の資格を所得し、病院収益にも貢献するため準備をしている。

5 今後の目標

高度な診療を支えていくためには更なる専門的な知識や技術が求められる。今後も学会・研修会へ意欲的に参加し、技術・情報の収集に努め、学会・研究会での発表・投稿を積極的におこなう機会を設け、医師や看護師の業務軽減につながる改善や、医療安全管理などのチーム医療に積極的に取り組み、病院運営に貢献していきたい。